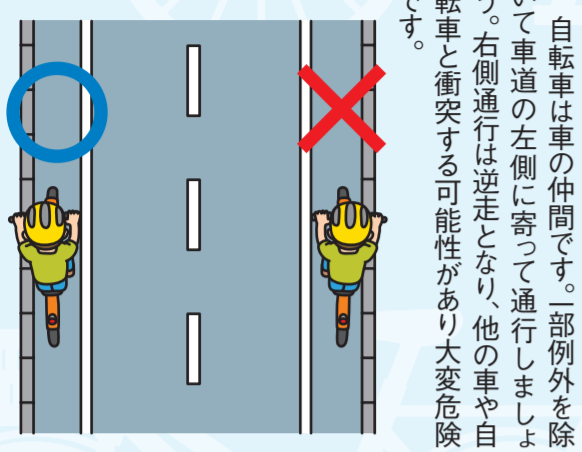


ちばサイクルール

自転車に乗るときにルール

車道の左側を走ろう



自転車は車の仲間です。一部例外を除いて車道の左側に寄って通行しましょう。右側通行は逆走となり、他の車や自転車と衝突する可能性があり大変危険です。

歩いている人を優先しよう



自転車は原則として車道の左側を通行しますが、歩道は通行できる場合があります。しかし歩道は歩行者が優先です。周りの様子に気を配り、思いやりにもって安全が確保できる速さで走りましょう。

歩道を通行できる場合

- 歩道に「普通自転車歩道通行可」の道路標識や道路標識がない場合
- 13歳未満の子ともや70歳以上の高齢者、身体の不自由な人が自転車を運転しているとき
- 車道の工事や駐車車両などがある場合、車の交通量が少い、車道の幅が狭いなどで車道を安全に通行することが難しいとき

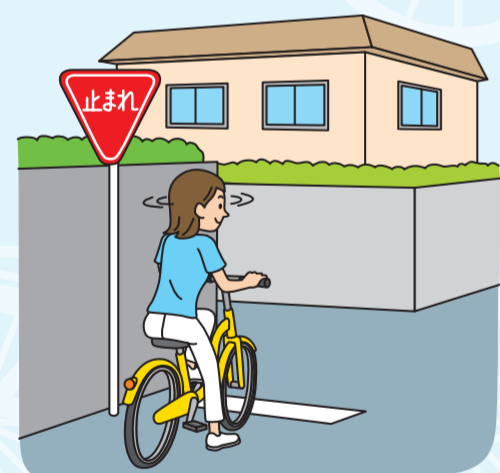
ながら運転はやめよう



傘差し、スマホ携帯、ヘッドホン使用などの「ながら運転」は危険です。法令で禁止されているのはもちろんのこと、思わぬ事故の原因になり、あなたと周囲の人も危険に巻き込まれます。絶対にやめましょう。

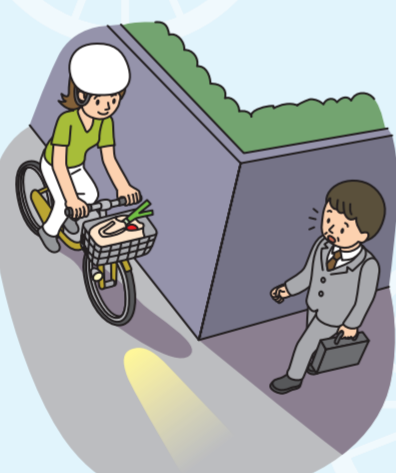
- イヤホン・ヘッドホンを使用して音楽を聴くなど、周りの音や声が聞こえない状態での自転車運転は、危険に気づくことが遅くなったり音楽に気を取られて運転に集中できなくなったりする可能性があり大変危険です。
- スマホ・携帯電話を使いながらの自転車運転は周りの様子が見えなくなり、歩行者や車にぶつかる可能性があり危険です。
- 傘を差したり荷物を片手に持ったりしながらの自転車運転は周りが見えにくくなるうえ、風にあおられるなどでバランスを崩しやすくなるなどの可能性があり危険です。

交差点では安全確認をしよう



自転車事故の半分以上は交差点で発生しています。交差点など道路が変わる場所では、周りの車や歩行者の動きに十分注意し、安全を確認してから渡りましょう。

夕方からライトをつけよう



自転車のライトは前方確認のためだけでなく、車などに自転車があることを知らせるためのものです。特に夕暮れ時は車の運転手も暗さに目が慣れないため発見が遅れがちになること、自転車の通行量が多くなり事故が起きやすくなることから、早めにライトを点灯しましょう。

もっと交通安全に関心を持ってほしい

市川市交通安全母の会会長 川上みつ子さん



市川市交通安全母の会は、平成7年に発足し、市内各地で行われる各交通安全運動や市民まつりに参加し「母親が家庭で家族に声をかける」ように啓発してきました。最近特に気になるのは、子どもを自転車に乗せ、危険な運転をしている親御さんです。前後に子どもを乗せ急いで保育園や駅まで自転車で行き回っているのを見かけます。大人がルールやマナーを守らなければ子どもがまねをしてしまうので、しっかり守り子どもとの見本となってください。実際に事故に遭わないと気が付かないことも多いですが、一人ひとりが交通安全に関心を持ち、守るようになってほしいです。

▲行徳駅での啓発活動の様子

アツ!! 危ない 自転車も安全運転を



スケアード・ストレイト

市ではスタントマンが交通事故を再現する「スケアード・ストレイト方式」の自転車交通安全教室を、全市立中学校を対象に実施しています。自転車の交通事故の怖さを学べる貴重な機会です。申し込み不要で参加できますので地域のみなさんもぜひお越しください。

今後の予定 大洲中学校 9月4日(木) 午後1時30分から
第四中学校 9月20日(木) 午後1時35分から

「スケアード・ストレイト方式」恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐ教育手法

平成29年中の市内における交通事故件数は910件でした。その中でも自転車に関係する事故は285件と30パーセント以上を占めています。自転車は便利でエコな乗り物ですが、車の仲間であり事故を起こしてしまう恐れもあるため、道路交差点や条例で細かく規定されています。夏休みになり、子どもたちも自転車に乗り出かける機会が多くなります。ルールを守り、事故を防いで安全に自転車を利用しましょう。

図07-1-2634-1 交通計画課

安全確認を怠らざルールを守る事が大切

行徳警察署 交通課長 羽石 聡さん



市川市は全国で見ても自転車事故の割合が多く、毎年死者も出ています。事故の特徴としては、交差点付近での事故が7割となっており、一時停止や安全確認をすればその半分以上は防げるものです。

また、特に16歳の交通事故が突出しています。これは通学によって自転車に乗る機会が増えること、ルールマナーを知らずに乗っていること、起きてしまいます。若い世代はスマホを片手に運転をしていたり、イヤホンを耳につけたまま運転をしたりしていることが多いです。交通事故は起こしてから「ごめんささい」では済みません。ルールを守り交通事故を防ぎましょう。

反射材やヘルメットを活用しよう

自転車乗車中の事故で亡くなった方の6割以上が頭のケガが原因です。ヘルメットを正しくかぶっていた場合、死亡率が約4分の1まで低減します。自転車事故による頭のケガを防ぐためヘルメットをかぶりましょう。



▲イベントなどで配布しています